分子イメージング連携特別講義

プロテオグリカン糖鎖と高次脳機能：自閉症原因分子としてのヘパラン硫酸の解析を中心に

山口 祐教授
Sanford-Burnham Medical Research Institute,
Sanford Children's Health Research Center, La Jolla, CA, USA

山口先生は、本学医学部出身で米国で研究活動を続けているプロテオグリカン糖鎖研究の国際的な第一人者です。今年3月にPNASに発表し、世界中から注目を集めている自閉症に関する最新の研究データを紹介していただきます。東北大学大学院医学系研究科の客員教授も務めていただいています。

日時：10月1日（月）14：00－15：30
場所：医学部5号館2階201号室

連絡先：医学系研究科機能薬理学分野
東北大学分子イメージング研究推進室
古本祥三・谷内一彦（717－8055）
共催：　東北大学サイクロトロンRIセンター

創 薬 薬 理 フ ォ ー ラ ム
第２０回シンポジウム

日 時： 平成 24 年 9 月 27 日(木)～28 日(金)
会 場： 日本薬学会 長井記念館（東京都渋谷区）

9 月 27 日(木)

受付 12:30～

新 薬 ＜1＞「新規な痛風・高尿酸血症治療薬フェブキソスタットの基礎と開発経緯」
13:00～13:50 近藤 史郎（帝人株式会社 近藤研究室）

新 薬 ＜2＞「成人 T 細胞白血病リンパ腫の薬剤開発に向けた抗 CCR4 抗体モガムリズマブ産学一体化開発研究(仮)」
13:50～14:40 高 橋 健（協和発酵キリン株式会社 富士リサーチパーク薬理研究所）

＜シンポジウム＞「老化関連疾患を考える」
15:00～18:00 オーガナイザー： 谷内 一彦（東北大学院医）、成田 寛（田辺三菱製薬㈱）

＊「老化シグナルと生活習慣病」
南 野 徹（千葉大学医学部附属病院 循環器内科）
＊「腎臓の老化メカニズムと病態への関与」
西 山 成（香川大学医学部 形態・機能医学講座薬理学）
＊「新たな心不全治療戦略−ミトコンドリア DNA 蓄積と炎症の観点から−(仮)」
岡 崇 史（大阪大学大学院医学系研究科 循環器内科学）
＊「血管内皮細胞における NF-κB 経路が代謝や老化・寿命に及ぼす役割」
長谷川 豊（東北大学大学院医学系研究科 糖尿病代謝科）
＊「腎血管系の老化に対する尿毒症物質インドキシル硫酸の影響」
清水 英寿（北海道大学大学院農学研究院）

＊＊＊ 18:20～ 懇親会 ＊＊＊

9 月 28 日(金)

受付 8:40～

新 薬 ＜3＞「新規 ALK 阻害薬クリゾチニブの抗腫瘍作用」
09:10～10:00 田 原 誠（ファイザー株式会社 非臨床開発研究部）

特別講演＜1＞「分子標的治療の現状： 胃がんを中心に」
10:00～11:00 土井 俊彦（国立がん研究センター東病院 消化管内科）

特別講演＜2＞「プロテオグリカン糖鎖と高次脳機能 — 自閉症原因分子としてのヘパラン硫酸の解析を中心に」
11:00～12:00 山 口 祐（Sanford-Burnham Medical Research Institute, Sanford Children's Health Research Center）

＜フォーラムディスカッション＞「トランスレーショナルリサーチの現状と将来」
13:00～15:30 モデュレーター： 荒川 義弘（東大病院 臨床研究支援センター）

＊「創薬シーズの創製へ向けたこれまでになかった研究支援ネットワーク」
小島 宏建（東京大学 創薬オープンイノベーションセンター）
＊「橋渡し研究拠点の現状と将来」
佐藤 典宏（北海道大学病院 高度先進医療支援センター）
＊「東大病院における早期・探索的臨床試験支援体制」
荒川 義弘（東大病院 臨床研究支援センター）
＊「産学連携によるトランスレーショナルリサーチの進め方」
宮田 桂司（アステラス製薬株式会社 研究本部）
＊「薬事戦略相談の現状」
安 藤 剛（医薬品医療機器総合機構 審査マネジメント部）

新 薬 ＜4＞「がん骨転移における RANKL の役割と抗 RANKL 抗体デノスマブの作用(仮)」
15:50～16:40 和田 悌司（第一三共株式会社 研究開発本部 癌研究所）

代表世話人： 飯野 正光 遠藤 政夫 加藤 隆一 長尾 拓 橋本敬太郎
企画学術担当幹事： 谷内 一彦 成田 寛
主催： 創薬薬理フォーラム 事務局 E-mail: soyaku@m.u-tokyo.ac.jp
後援： 社団法人日本薬理学会